

他の地域の臼太鼓踊り

西都市石野田地区の臼太鼓踊り



【出典】 西都市役所

<http://www.city.saito.miyazaki.jp/info/history.html>



江戸時代、肥後の細川藩士によって伝授されたと伝えられている。

石野田地蔵境内にて、豊作祈願の虫追い踊りとして、また火除け踊りとしても奉納されている。

踊りは、鉦打ち 4 人、歌い手 4 人、踊り手 16 人以上で編成される。踊り手は膝下までの短いかすりの衣装に黒帯を締め手甲・脚半に黒足袋、わらじ、背には、3 本の幟を背負い中央の竿の長さは 2.2m で先端に「すみとり」という五色の飾りをつけ、胸には胴径 30cm の太鼓を抱く。中央の幟竿の中ほどに 12 連の鈴をつけ、全員ではないが「関幣」と称する御幣をつける。「関幣」は、古くから踊りの名人につけた印と言われている。

宮崎県内の臼太鼓踊り

宮崎市青島



【出典】 宮崎市の文化財
宮崎市教育委員会

「青島臼太鼓踊り」は、県内で多く見られる踊り手一人一人が背に幟、胸に太鼓をつける踊りとは違って、それらを身に付けないことに特徴がある。

踊り手は、太鼓組と面組に分かれ、面組が太鼓組を取り囲むように円陣を作り、右手に杓子、左手にスリコギを持ち、左右交互に天を突くように突き上げ、勇壮、またときには優雅に踊る。

18 世紀初頭から盆踊りとして伝承されている。

宮崎県から熊本県にかけて「臼太鼓踊り」が古くから伝えられています。「臼太鼓踊り」は先祖の霊を供養する念仏踊りが、華やかな衣装を付けた“風流”へと発展したものです。“臼太鼓”は臼を横にし、これを胸に抱くことから名がつけました。